

大雨で約800世帯に避難指示

8月2〜3日、町内に2日間で140mmを超える大雨が降り、馬淵川などの河川の増水や土砂災害の危険性が高まったため、町は約800世帯に避難指示を発令しました。幸い人的被害はありませんでしたが、家屋などへの浸水や道路への土砂流出など被害が発生しました。



主要地方道一戸葛巻線に流れ込んだ大量の土砂（垂柳）



住宅密集地まで押し寄せた土砂（城内小路）

前線や低気圧の影響で、8月2日から県北部を中心に記録的な大雨となりました。本町では3日、午前6時6分に大雨警報（土砂災害）が発令され、町は災害警戒本部（後に対策本部へ移行）を設置し、町内全域の見回りなど災害の発生に備えました。馬淵川田子水位観測点の水位が1.4mを超えたことから11時43分、災害対策本部は田子から下流の馬淵川流域及び星野地区の約800世帯、1600人に警戒レベル4「避難指示」を発令。自主防災隊の支援のもと、各地区センターに避難所が開設されました。

町が8月22日までにまとめた家屋などの被害状況は、住宅や牛舎などへの浸水被害が12件、土砂流入が3件となっています。河川や道路の被害では、河川13か所、国道4か所、県道5か所、町道19路線、農道および林道28路線が被害を受けました。災害復旧に係る町の概算事業費は約2億3千万円を見込んでいます。また、農地の被害は、デントコーンの倒伏、牧草地や畑への土砂流入など220㍓となっています。



電線に引っかかる倒木（毛頭沢）



増水による路肩の崩落（上田野〜小田） 土砂で塞がれた町道（小田）



災害への備え、大丈夫ですか？

短時間に大量の雨が降る集中豪雨は、河川の急激な増水をもたらすほか、土石流や土砂崩れなどの土砂災害の危険性を急激に高めます。日頃から災害危険箇所や避難先を確認し、いざという時に速やかに行動できるように備えましょう。

防災マップを確認しよう

自宅や職場など、身近な場所での洪水、土砂災害などに備えるためには、防災マップ（ハザードマップ）の活用が有効です。

8月2日、町民生児童委員協議会（觸澤進一会長）は防災に関する研修会を開催し、

33人が参加しました。

研修会では、総務課の橋本明防災対策専門員を講師に、防災マップを活用して、当地域の土砂災害の危険区域や河川の氾濫想定区域などを確認。有事の際に、住民の安全な避難を支援する民生委員の役割を再認識していました。防災マップは令和元年に各

避難情報を理解しよう

世帯に配布しているほか、町のホームページにも掲載していますので、家庭でも確認しましょう。

昨年5月から、災害時の避難に関する情報が変わり、今回の災害で町は警戒レベル4「避難指示」を発令しました。

この機会に、町や気象庁から発表される、5段階の大雨警戒レベルと避難情報の意味を正しく理解し、災害時に適切に行動できるように、再確認しましょう。

災害に日頃から備えよう

集中豪雨は突発的に発生し、予測が困難です。日頃の備えと、被害が予測される時の対応を確認しましょう。

確認しよう！

避難情報ととるべき行動

警戒レベル	避難情報等	とるべき行動
5	緊急安全確保（葛巻町）	命が危険 直ちに安全確保！
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞		
4	避難指示（葛巻町）	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難（葛巻町）	危険な場所から高齢者等は避難
2	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）	自ら避難行動を確認
1	早期注意情報（気象庁）	災害への心構えを高める

【日頃の備え】

- ▼ 停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオを用意する
- ▼ 非常持出品（飲料水、非常食、救急医療品、ラジオ、懐中電灯など）を用意する
- ▼ 飲料水や食料を3日分確保しておく

【被害が予測される時】

- ▼ テレビやラジオの気象情報に注意する
- ▼ 町や防災関係機関のお知

【注意】

- ▼ 大雨が予想されるときには早く帰宅し、家族と連絡を取り非常時に備える
- ▼ 浸水に備えて家財道具を高い場所へ移動する
- ▼ 危険な地域では、いつでも避難できるように準備する



橋本専門員（円内）と防災マップを確認する民生委員の皆さん



◀各世帯に配布されている防災マップ
▼町ホームページの防災マップ掲載ページ

